



派遣留学報告書

資料 9

	記入日	2018年12月30日
氏名	このゆうすけ 河野雄介	
所属学部・研究科	生物生産学部生物圏環境コース	3 年次 (留学開始時点)
学生番号	B164206	
留学先大学	カセサート	大学 (国名: タイ)
所属学部・学科等名	Tropical Agriculture	
在籍身分	学部生	
留学期間	2018年8月4日～2018年12月27日	

1. 留学するまで

留学しようと思ったきっかけ・理由	今まで一度も海外渡航を経験したことがなく、とても良い人生経験になると思ったため。また、自身の英語力を向上させたいと思ったからこの留学を決意した。
留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?)	応募してから準備を始めた。
事前準備について (どのような準備をしたか、しておけばよかったか)	もう少し、タイ人の性格やタイの流行について理解を深めておけばよかったと思う。事前準備としては、TOEICの勉強をした。

2. 渡航について

ビザについて	ビザの種類: non-immigrant ED
	ビザ申請先: タイ国大使館
	提出書類: 申請書、航空券、経歴書、入学許可証、推薦状、保護者の身分保証書、承認状
	手続きに要した日数: 2週間
その他必要な事前手続き	オンラインによる予約
出国年月日	2018年8月4日
経路(往路)	広島ー羽田ースワナプーム
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (大学関係者・その他) <input type="checkbox"/> 無
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	カセサートの紹介VTR、施設の紹介やチューター発表



留学先でかかった病気、けが	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合、具体的な症状等（情報共有しても差し支えなければ）	
留学前後での予防接種の必要の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名	B型肝炎 2回 破傷風 2回 日本脳炎 1回 すべて川口内科クリニック 総額3万円程度
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由：
留学先国の医療事情（日本と比較して）	病院に行っていないので詳しくはわからないが、コンビニでも虫刺されなどの医薬品は普通に買うことができた。
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	冷房の効きが屋内だと異常に強いので、羽織るものは必須。寮の部屋の冷房もタイマー設定して寝たほうがいい。逆に屋外では日差しが強いので帽子は持っておいたほうがいい。衛生面としては、キュウリは食中毒が多いらしいので、屋台で絶対に添えられるが食べないほうがいいと思う。
(3) 食生活についてのアドバイス	
基本的に毎日の食事は、昼は大学内の食堂で、夜は寮の近くの屋台で済ませていた。基本的にどこも英語が通じないので、メニューを写真に撮ってみせると良い。最初はもちろん口に合わないとおもうものばかりだが、タイの味に慣れてくるとどれも美味しくなってくる。コンビニも近くにあって品揃えは日本よりも充実しているので食には困らない。日本食が恋しくなったら、pronponと言う日本人街に行けば、リーズナブルな値段で日本食が食べれる。	
(4) 服装についてのアドバイス	
基本的に寮内では半袖もしくはタンクトップと短パンで十分。学校にはスリッパではなくスニーカーでいかないといけない（特に支援室に用事があるときや授業の発表の時）。学校外ではどのような格好でもいいが、観光として寺院に行く時にはタンクトップや過度に短いズボンだと入ることができない。制服だと割引があるのでオススメ。	
(5) 学内外の施設・設備環境について（インターネット環境含む）	
学校内にはプールやトレーニングルームがあって、運動不足を解消することができる。カフェやレストランも充実していて、休みの日も楽しむことができる。寮にもトレーニング場があり、交流がたくさんできる。インターネットはWiFiが学校でも寮でも完備されており、困ることはない。	
(6) 現地学生や地域との交流について（どのような、機会・きっかけがありましたか？）	
学校内のバスケットボールに参加し、タイ人の学生と交流できた。 また授業では、タイ人と留学生がグループワークのグループ分けで混合されることがほとんどで、交流の場はたくさんあった。地元の飲み屋でも交流できた。	
(7) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと	
バスは日本と違って前払いなので、車掌に行き先を伝えてお金を先に払う。 対人関係では、英語は不得意でもニコニコしていればたくさん友達はできる。 お酒は5時以降でないと買えない。	
(8) 日本から持っていくべきもの、持っていくべきでないもの	



持っていくべき
常備薬、日本らしいお土産（思ったよりたくさん持っていたほうがいい）、UNO などのみんなで遊べるゲーム、
上着、汚れてもいい靴（フィールドワークが多いため）、モバイルバッテリー、電子辞書
持っていくべきでないものは持たない

(9) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス

簡単なタイ語は覚えておいたほうがいい。大学内では英語でほとんど通じるが、外に出るとデパートなど以外はなかなか通じない。

6. 帰国後の進路について

卒業予定年月	2020年 3月 (当初の卒業予定年月 2020年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他（具体的に)
現在の状況および今後の予定・進路等	卒業に必要な単位は三年生で取り終わるので公務員試験の勉強を本格化する。
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	選択必修の単位に互換できるので、選択科目と必修科目を留学前はたくさん履修するようにした。

7. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等

書籍、サイト名	詳細（出版社、URL 等）	コメント

8. 留学を振り返って

留学を終えての感想：
はじめは期待と不安が入り混じったような気持ちで留学に臨んだが、寮のインドネシア人や他大学の学生、大学のタイ人などみんなとてもフレンドリーで、さらに一緒に留学に行ったメンバーも気の知れた友達が多かったこともあり、すぐに馴染むことができた。本当に人生で一番濃い五ヶ月だったと心からそう思う。様々なことを学び、体験できたので、これらの経験をこれからの人生に活かしていきたいと思う。

後輩へのメッセージ：
PEACE プログラムは本当にいいプログラムです。金銭面での援助もしっかりしているし、何より今までしたことのないような経験が山ほどできます。迷っているなら絶対に参加するべきです。一歩踏み出してください！！



9. 自由記述 (1200字以上)

- ・「学習に関すること」や「生活に関すること」について自由に書いてください。
- ・写真を2~3枚貼り付けてください。(各写真の容量を100KB程度まで小さくすること)

学習面

僕は自分が所属していた Tropical Agriculture の授業を計4つ、12単位分履修しました。もちろん授業はすべて英語です。最初の方は教授が何を言っているのか本当にわからない状態でした。ただこれも慣れというものがとても重要であって、授業の回数を重ねていくうちに、だんだんと理解できるようになっていきました。授業への理解をより深めるためにはやはり復習が大切だと思います。授業の内容自体は極めて難解であるというわけではなく、少し発展的な内容というくらいだったので、授業が終わるごとに復習をすれば、そこまで遅れることなくついていくことができました。寮の一階にスタディールームがあり、自分を含め多くの留学生(特に日本人)が勉強に取り組んでいました。正直なところ、圧倒的に日本にいた時より勉強量は増えたと思います。学習面において特に新鮮に感じたことは、カセサート大学では広島大学と違ってグループワークや発表がとても多いということです。授業の時には必ずと言っていいほど留学生と現地の学生とを混同したグループに分かれて様々な話題について議論します。もちろんここでの使用言語も英語です。現地のタイ人学生や、多くの授業を共にしていたインドネシアの学生はとても英語が上手で、自分も大きな刺激を受けて頑張ることができました。英語力の向上には、もちろん机で行う勉強も大切ですが、やはり実際に会話をすることが苦難は多い分、英語力を身につけるのにとっても重要だと感じました。最後にテストについてですが、やはりとても難しかったです。ただ、寮のスタディールームではたくさんの学生が勉強をしていて、それを見ると自分も負けていけないなと思い、鼓舞することができました。

生活面

率直に言うと、毎日の生活の中で不便を感じたことはほとんどありませんでした。バンコクはタイの首都であるためとても生活水準が高く、必要なものは近くのスーパーやコンビニでだいたい揃いました。とても便利だったのは寮から徒歩1分のところにセブンイレブンがあったことと、寮の目の前に屋台がたくさん並んでいたことです。これらのおかげで、日常生活には困りませんでした。しばしば悩まされたのは交通渋滞です。平日休日関係なく、朝と夕方はものすごい交通量で、バスやタクシーが1時間で1キロ程度しか進まなかったこともありました。地下鉄(MRT)やモノレール(BTS)は渋滞に引っかからないのでとても便利ですが、その分バスより値段は高いですし、何より寮の近くにそれらの駅がなかったというのが少し不便でした。二年後くらいに寮の近くの駅が完成するらしいので、後輩の皆さんは少し便利に過ごせると思います!

生活面でよかったことは、様々なところに旅行に行けたということです。タイに五ヶ月間も住んでいたからこそ、タイ国内の有名観光地だけでなく、地元の人だけが知る秘境や、近隣の国に行くことができました。特に心に残っているのはラオスに行ったことです。日本からの直行便はないため、タイにいたからこそ訪れることができました。本当に楽しくてあっという間の五ヶ月間でした。

< 提出先 >

当報告書は、電子データ(Word形式)をメール添付の上、下記メールアドレス宛に提出してください。

国際交流グループ PEACE 学生交流プログラム事務局：peace-clmv@hiroshima-u.ac.jp

国際交流グループ AIMS+HU 事務局：aims@hiroshima-u.ac.jp